

下商物語 (その五)

文化祭(下商祭)のはなし

本校教諭 林 俊行

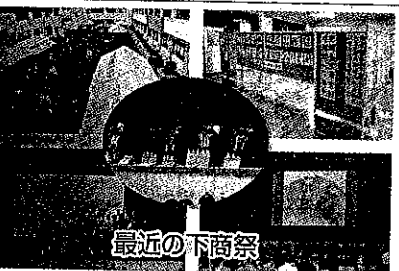
本校の文化祭は、昭和三十五年
度から開催されました。最初の十
年間は一日開催で、講堂を中心と
して上演・展示・バザーを秋(九
月から十二月中旬までの一日)に
開催されていましたが、体育館が
完成した昭和四十七年度から二日
間(校内発表・一般公開日)と上
演会場を体育館に変更して開催さ
れるようになりました。日曜日が
一般公開日となったのは平成五年
度からで、現在のように十一月二
日に校内発表として翌日の文化の
日を一般公開日としたのは翌年の
平成六年度からとなります。ちな
みにその年から全校企画として巨
大壁画や空き缶アートなどの巨大
モニメントを作成するようになり
ました。

「下商祭」と名称変更したのは、
昭和五十四年度からで高校生らし
い活気に満ちた下商独自の文化祭
を全員参加・協賛・連帯の和で広
げようとの思いで改名されました。
筆者が生徒の時に、当時の先生方
に体育大会と文化祭を一緒の日程
にして学校全体で大きな行事とし
て「下商祭」を開催すればと提案
したのですが、実現には至らな
かった思い出が蘇ってきます。
大まかに中身を紹介しますと、
昭和五十年代の後半は、上演部門
は、演劇が中心で、演劇部は勿論
ですが、本格的に脚本から舞台道
具や衣装などクラスの生徒や担任
の先生方によって「絵姿女房(教
職員による)」「や「浮石一揆(ク
ラスによる本格的な取り組み)全
国高校生部活研究会にて上
演」や大合唱「ベーターペンと
与作(学年三百名による)」な
どを手がけました。また、平成十
二年度から合唱大会を校内発表日
に行うようになりました。また、
平成三年度からテーマを設けて、
「創造」「今開かれる文化の扉
(創立百十周年)」「それは新た
なスタート(2000年)」「秋
玲瓏」「文明開化 下商営業中」
「世界に一つだけの文化祭」など



職員劇 [絵姿女房]

毎年生徒の手によって考え出され
たテーマのもとに行事を行って現
在に至ります。展示では、部活
動・クラス・正課クラブ(昭和四
十八年度から平成十一年度まで実
施)・PTA・教科・保健委員
会・姉妹校生徒作品展・有志によ
る出品がされています。バザー部
門では、調理品提供や物品販売を
行っていますが、平成八年度から
〇一五七が問題となり、調理法
やゴミだしの方法など細心の注意
を払って行われるようになりました。



最近の下商祭

全校企画は、平成五年から生徒
会主導で取り組まれ、古葉書・千
羽鶴による巨大壁画から始まり現
在に至ります。緻密な計画でなか
なかの作品が完成されて見応えの
あるものに仕上がっています。な
お、上演に関しては、ステージ発
表として金クラスが工夫を凝らし
て歌・踊りなどのパフォーマンス
を演じて、全校生徒や先生方が投
票した上位クラスを開会式で発表
するようになりました。生徒の手
により考えた内容に大変興味深
い取り組みもあるようです。
十一月下旬開催(二日・三日)
での日程については、本校は就職
や進学がほぼ半々で、部活動の試
合がこの頃にある部活動もあり、
姉妹校との交流会などもこの頃に
集中して、日程調整が大変ですが、
いずれにしても文化祭が終わった
ら進学者は、自分の進路の実現に
向けてスイッチを切り替えて頑張
ることになります。これからも本
校での文化の祭典として進化して
欲しいですね。